

式 辞

やわらかな日差しを浴び、校庭の木々も新芽が伸び、桜のつぼみもふくらみ始めました。本日ここに、平成二十六年度篠崎第二小学校第四十八回卒業式を開催するにあたり、江戸川区会計室長永井博史様をはじめ、多くの御来賓の方々並びに保護者の皆様にご臨席をいただき、誠にありがとうございます。うございます。心よりお礼申し上げます。

さて、六十七名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ただ今一人一人に渡ししました卒業証書には、六年間の頑張り、そして支えてくださったご家族と先生方、地域の方々温かい思いが込められています。このようにたくさんのごとが込められている証書を手にして、今様々を思いがこみ上げてきていることでしょう。

六年前の春、お家の人に手を引かれ、真新しいランドセルを背負って皆さんは入学しました。夏の暑い日や冬の寒い日、雨の日も風の日も元気に登校し、「光る子」を目標に勉強や運動に励んできました。特にこの一年間は、一年生のお世話をしてくれましたね。全校遠足などの様々な行事でも

学校のリーダーとして常に先頭に立ち、心を一つにしてがんばってくれました。運動会や体育大会、日光移動教室、学芸会と、様々な活動を通して、助け合い相手の立場に立って考えること、心の痛みが分かり、皆で高め合うことのたいせつさを学びました。

その中でも、私が一番感動したのは、代表委員会で話し合った「篠崎第二小学校をもっとよくするにはどうしたらいいか」という内容でした。話し合った結果、「ほかの学年との交流を増やそう」ということに

なりました。そこで、各クラスで、どの学年と、いつ、どのように交流するかを話し合い、交流の機会をもちました。この活動は、運動会や学芸会に比べれば確かに目立たないかもしれませんが、しかし、子どもたちが自分たちで課題に向けて考え、話し合い、行動したことは、とてつもなく大きな一歩なのです。だから、やがて大人になり、社会人になっても、この一歩を忘れないでください。みなさんが、これから歩んでいく先には、環境問題、エネルギー問題、国際平和など、考えていかなければなら

ない課題がたくさんあります。しかし、「もっと良くしたい」「もっと良くするにはどうしたらいいのか」を自分たちで考えようとしたあなたたちならきっと解決することができます。彫刻家であり詩人の高村光太郎さんの詩に、このような言葉があります。「僕の前に道はない 僕の後ろに道はできる」まさに今の皆さんのために向けた言葉ではないでしょうか。前に向かって皆さんが踏み固めたところが未来という道になるのです。もう後戻りはできません。なぜならば、皆さんはもう

すでに篠崎第二小学校の六年間で学んだこと、体験したことを活かして、新しい出会いや人との関わりを大切にして、夢や希望を胸に、自信をもって力強い第一歩を踏み出したのですから。

そしてもしも、心が疲れたときや、寂しくなったりときには、篠崎第二小学校の校歌を思い出し、口ずさんでみてください。「われらはいつも胸を張り たゆまず伸びる 日にのびる 篠崎第二 やりぬく力」今日この卒業式にみんなで歌ったこの歌詞が、きつとあなたに勇気をくれるはず

です。「日本をもっとよくするにはどうしたらいいか」皆さんなら考えられます。自分たちでよく考え、自分たちを信じ、自分たちの手でやり遂げてください。日本の、世界の未来を私は皆さんに託します。どうか力強く美しい未来への道を力を合わせて築き上げてください。今日はその第一歩です。

保護者の皆様、本日は本当におめでとうございませす。お子様が立派に成長されたことを、心からお慶び申し上げます。六年間にわたり、本校の教育に、温かいご理解とご支援をお寄せいただき、ありがとうございます。また、卒業生六十七名の成長を見守ってくださいました地域の皆様にも心から感謝し、これからも本校児童を「地域の宝」として末永く見守っていただけますようお願い申し上げます。

卒業生の皆さん、名残は尽きませぬ。いよいよお別れです。皆さんの健やかな成長と素晴らしい前途を祝して式辞の言葉といたします。

平成二十七年三月二十四日

江戸川区立篠崎第二小学校 校長 篠原一